

新 いわた

文化財だより 第65号

磐田市教育委員会文化財課 平成 22 年 8 月 1 日発行

◎目次◎

- 文化財課企画展
くろがね・しろがね・あかがね…………… P1・2
～くらしのなかの金属～
- みんなに話したい「わたしの好きな文化財」(27)
～「そんじょそこの橋のはなし」～ …… P3
- 新企画(中)
市内石造物を訪ねて～六地藏、そして…………… P4

文化財課企画展

くろがね・しろがね・あかがね

鉄 銀 銅

～くらしのなかの金属～

磐田市内の遺跡から見つかった鉄・銀・銅でできた出土品をはじめ、最近まで使われていた、鍛冶職人さんの道具などを展示します。



左 銅鐸どうたく 複製《西の谷遺跡出土(敷地) 弥生時代 青銅製》

右 よろい・かぶと 《安久路2号墳出土 古墳時代 鉄製》

平成22年7月31日(土)～8月29日(日)

火～金曜日 9:00～18:00 / 土・日曜日 9:00～17:00
(月曜日・8月27日は休館)

磐田市立中央図書館 展示室(磐田市見付3599-5)

古代の人びとは金属をこがね（金）、しろがね（銀）、あかがね（銅）、くろがね（鉄）と呼び、さまざまな用途で使用しました。金属は、希少な材料でしたので、たいへん貴重でした。市内の遺跡・古墳から出土した金属製品を、用途別に展示しました。

武器・武具

戦いのときに使いました。多くは、古墳の副葬品として見つけられます。銅や鉄でできていて、表面に銀象嵌（金属に模様を刻み銀線をはめ込む）が施された大刀の飾り（右写真）などもあります。金属製の武器・武具は一般的な道具ではなく、今から 1,500 年位前の有力な人だけが持つことができた高級品です。



▲明ヶ島 15 号墳 鞘口金具

祭具・装身具・馬具

弥生時代の銅鐸や銅鏡、古墳時代の耳飾り、馬につけた飾りなどがあります。耳飾りや馬の飾りにはメッキ（金属の薄い膜でものの表面を覆う技術）が施されたものがあります。当時の金属加工の技術の高さがわかります。



▲市内の古墳より出土 耳飾り

農具・工具

農具・工具も古墳から出土します。当時、鉄製の農具はまだ一般的でなく、古墳の副葬品とされました。金属製の農具の製造には高度な技術を要するため、一般に使われるようになるのは中世（今から 900 年位前）以降のことです。



▲堂山古墳 農工具

民具 鍛冶道具

近年まで使われていた金属製の民具のうち、鍛冶道具を中心に展示しています。また、鍛冶仕事の作業場を展示室内に再現しました。



←鍛冶仕事をする市川氏（平成 21 年撮影）



8月8日（日）、8月21日（土）、
8月29日（日）の午後 1 時から
3時まで、市内在住の元鍛冶職人の
市川安郎さんの話が聞けます。

記念講演会

『青銅鏡の神秘と磐田の古墳時代』

講師 大手前大学 准教授 森下章司

日時 8月22日（日）14：00～16：00

場所 磐田市立中央図書館 視聴覚ホール

定員 150名 入場無料

申込み 埋蔵文化財センター TEL 32-9699（土日休み）

展示室でも申し込みできます。



みんなに話したい「わたしの好きな文化財」(27)

どこにでもあるような「そんじょそこの橋のはなし」

磐田市内のどこにでも、その地域の歴史が残されています。それは、日本を変えた大きな出来事でもなく、知る人も限られた話ですが、その事がなければ、その地域がなりたたなかった重要な出来事であったかもしれません。今回は私(佐口)が豊浜地区の幅2m足らずの排水路(古川)に架かる『唐人橋』についてご紹介します。

とうじんばし はらのや 唐人橋と原野谷川

原野谷川は、慶長9年(1604)に行われた河川改修によって太田川に合流され、現在の流路となりました。かつての原野谷川は、豊浜地区を縦断し、南端で東に蛇行、弁財天川付近で外洋に注いでいました。現在の古川、前川の流路です。この川に「唐人橋」と呼ばれる橋が架かっています。



異国船がやってきた

寛政12年(1800)12月4日、長崎に向かって清国(今の中国)寧波を出航した唐船(萬勝号)が遭難、遠州灘(掛川市沖之須沖)に漂着しました。知らせを受けた横須賀藩や掛川藩、旗本花房氏、中泉代官から警備の役人が出役しました。おりからの強風により、船は西へ流され12月11日に波浪のため破船します。



瓦版で紹介された唐船

破船に先立ち乗員や積荷が小船に移され、陸に移され、乗員は太郎助村と大島村(豊浜)の大安寺に分宿し、3月まで逗留することとなりました。この事件は巷でも大騒ぎとなり、多くの人々が見物にきたと伝えています。その後、遭難者は福田湊から鳥羽・長崎を経由し帰国することができました。

唐人橋と殿様

江戸時代の旧原野谷川には、丸太の橋しかなく、視察に来た殿様が川を渡ることができなかったようです。このため、萬勝号の廃材を使い、かけられた橋が唐人橋だったと子供の頃に聞かされました。当時の私はへっぴり腰の殿様を想像し、一人笑っていました。唐人橋は12間5尺(23m)、幅2間(3m余り)であったと伝えられ、その残材は豊浜小学校に残されています。



唐船の残材(豊浜小学校)



『橋』の名を気にしてください

橋などには小字や伝承、その土地の歴史を伝えるものも少なくありません。豊浜地区の前川に架かる橋には、塩田を開発した旧幕臣の長屋が近くにあったことから名づけられた「お長屋橋」もあります。一度、近くの欄干を確認してみたらどうでしょうか。私たちの知らない歴史の手がかりを知る機会になるかもしれません。

市内の石造物を訪ねて (中) 六地藏、そして…

1. ほかにこんな六地藏が！

今回は珍しい六地藏 1 基を紹介しましたが、市内ではこの他にも、**(1)一石に六体**、**(2)六面体の六地藏**があります。①は福田・五十子の蔵本寺にある舟形六地藏[享保 16 年(1731)銘]で、一石に六体の地蔵を彫りだしています。②-1 は豊岡・大平の円通寺入口にある六面体の地蔵です。傘をかぶせた形のもので、これを石幢と呼んでいます。②-2 は福田・南島の宗次寺にある六地藏で、かつては石灯籠のように立っていましたが、いつの間にか六地藏部分だけが残り、今では無縁仏の一画に寄せられています。石幢は六地藏信仰が盛んな室町時代に多く造られますが、この 2 基(②-1、②-2)は六地藏の彫り出しや仕上げが丁寧に施されていることから江戸時代初期のものではないかと推定しています。



①蔵本寺(五十子)



②-1 円通寺入口(大平)



②-2 宗次寺(南島)

2. 「伊勢国の石塔」を見つけたよ！

寺院境内の一画には、「無縁仏」といってお墓を供養する親戚や縁者の途絶えた墓石を集めておく場所があります。そんな無縁仏のなかに古い石塔を目にすることがあります。

そのなかでも、掛塚・西光寺で見つけた舟形光背五輪塔は特に珍しく、県内では類例がありません。元和 6 年(1620)銘の緑色片岩製で五輪塔をかたどった伊勢国の製品です。

江戸時代、懸塚湊が伊勢国の湊と交易をした証となり、またこの時代さまざまな交易品を手にしていたことが想像されます。石塔は供養のために特別に造らせたものでしょう。これはさすが湊町といえる一品です。

石造物の石材や類例をたどることで、製作された時代の背景が浮かび、興味をそそられます。



西光寺(掛塚)

編集後記：紙面でも紹介いたしましたが、文化財課夏の企画展が始まりました。同時に歴史文書館でも「公文書にみる戦争と磐田」展を開催しております。梅雨も明けて夏本番を迎え暑い日々が続きますが是非一度足をお運び下さい。

発行：磐田市教育委員会文化財課
(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538(32)9699
FAX：0538(32)9764
Mail：bunkazai@city.iwata.lg.jp